

金科および彫刻科志望者は彫塑または絵画を選んでよいこととなった。なお、「彫刻」という課目名が大村西崖の造語である「彫塑」へと変わった点も注目される。

次に、予備の課程の学科目が一部改正され、甲種、乙種ともに「書学」（週一時）が削除されてその分「歴史」の時間数が増加した。

## 2 卒業

卒業式は、七月十日に行われた。

## 3 学術実地指導

竹内久一、島田友春、向井勝幸、中村勝治郎ら教官が四年生三十数名を引率して奈良、京都古社寺宝物の見学旅行を行なった。

## 4 宝物修繕

明治三十三年から三十四年にかけて依頼製作事業の一環として滋賀県・広島県・大阪府下社寺宝物の修繕と滋賀県下社寺宝物の修繕とが彫刻科教授竹内久一監督のもとで本校教官や卒業生、研究科生徒によって行われた。竹内はそのために三十三年二月十五日、同年十月三十一日、三十四年三月十五日、同年五月二十二日、同年十一月六日の計五回出張を命ぜられている（『東京美術学校旧職員履歴書』）。三十三年には信谷友三（明治三十年彫刻科卒）が助手として竹内に同行し、広島県下から着手した。この事業は日本美術院との分担で行なったもので、同院側の代表は新納忠之介（明治二十七年本校彫刻科卒）であった。三十三年中の修理の様子について

諸紙が次のように伝えている。

○國寶物修繕に就て 本縣下寺院に於ける國寶物保存修繕の件に就ては曩に本縣廳より東京美術學校へ依頼せられたるに付今回同校教授竹内久一古社寺國寶修繕現場技術兼雜務副主任信谷友三（明治三十年彫刻科卒）の両氏は同校生徒五六名を引連れ來廣し右二氏は昨日本縣廳に出頭山田書記官並第一課社寺係等に面會談話する處ありたり 而して右一行は同日午後より嚴島に渡り修繕場所の位置取定めの上同島大願寺及光明院にある國寶の修繕に着手する筈なりしが同島に於ける修繕終り次第順次尾道市の淨土寺、西國寺、沼隈郡草戸村明王院等に於ける同寶物の修繕に着手する筈なりと云ふ

（明治三十三年二月二十七日『藝備日々新聞』）

○國寶の修繕 河内國金剛寺及び嚴島神社には本邦美術品の精英を鐘め國寶となすべきもの少なからざるが維新以來之れが修繕をなすものもななく追々破損に及ぶを以つて之れを修繕し日本美術をして永く保存の道を立てんとて金剛寺の方へは日本美術院の會員出張し嚴島の方へは東京美術學校の教授及び研究生出張したるが右兩方の監督としては美術學校卒業生新納忠之助氏之れに當り一昨日出張したり 此修繕には一年の日月を要すべしとの事なり

（明治三十三年三月七日『千代田日報』）

○廣島縣寶物修繕 廣島縣に於ける古社寺寶物中竹内久遠氏が巡視監督の下に修繕を加へたる嚴島大願寺の釋迦、阿南、迦葉、藥師、光明院の彌陀、惠心僧都の像等ハ既に落成し、福山明王院の觀音（天平時代の作）、尾の道光明寺の十一面觀音、同西國寺の藥師、釋迦及夫の松蟲の鈴の箱